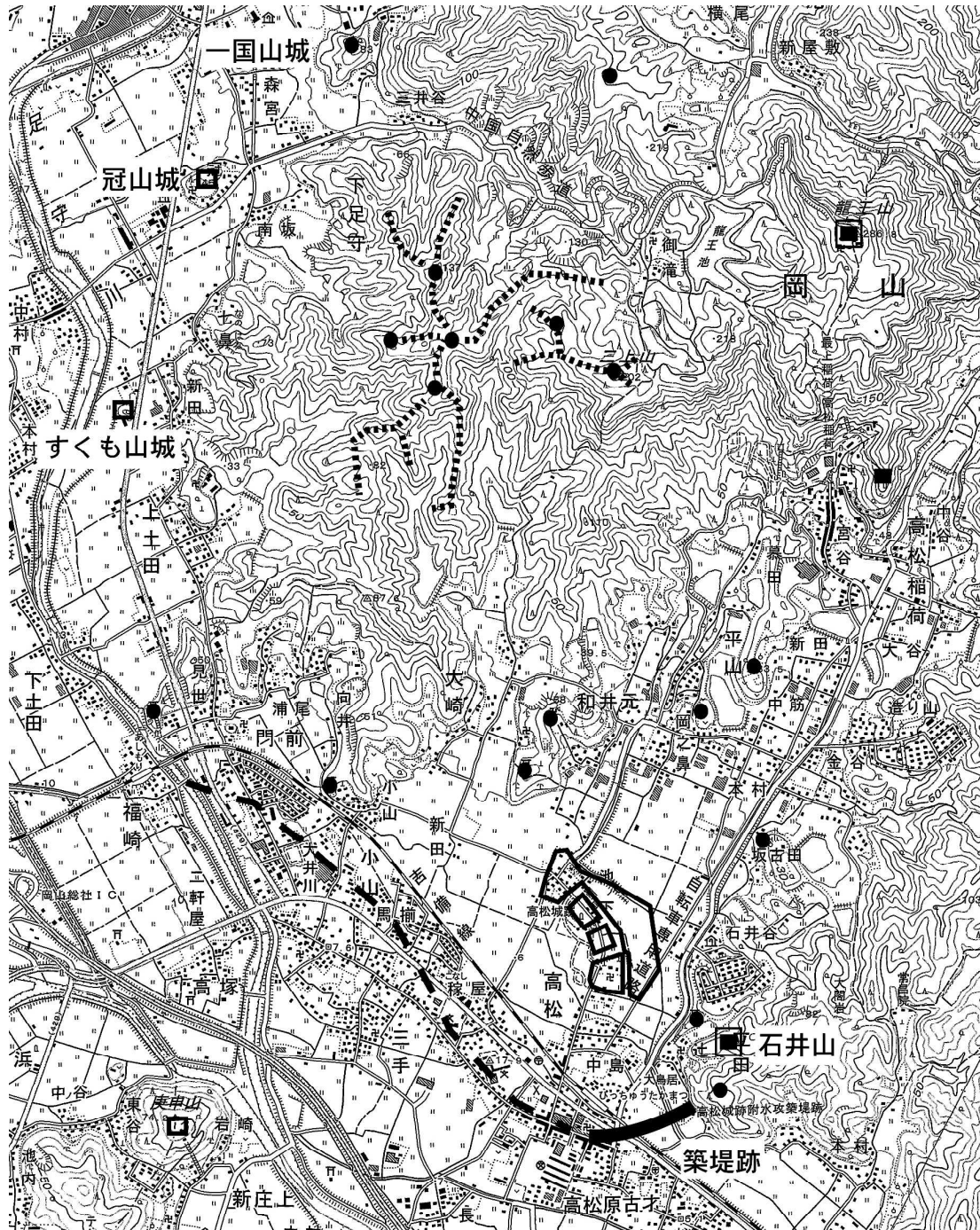


高松城水攻め関連遺跡

高橋伸二

【遺跡の位置】



S=1/25,000

【遺跡の概要】

備中高松城は天正10年(1582)織田信長の命を受けた羽柴(豊臣)秀吉によって「水攻め」された城として知られます。また、その最中に「本能寺の変」が発生し戦闘は織田・毛利両軍の講和で終結。直後、秀吉は「中国大返し」で一気に天下人に登りつめるという舞台となりました。高松城は織田勢や備前の宇喜多勢などおよそ3万の軍勢で包囲されたと伝えられますが、2ヶ月ほどの戦闘の結果、高松城周辺には水攻め築堤をはじめ広範囲にわたって両軍の城郭や陣城などが残されており、一部は発掘調査も行われています。

備中高松城 備中高松城は岡山市北区高松に所在する戦国時代末期の平城です。この城は水田からの比高1mほどの微高地上に築かれた城で、本丸・二ノ丸・三ノ丸と家中屋敷曲輪で構成されています。城内の建物は確認されていませんが、周囲が湿地で囲まれているうえ郭周辺にも堀が廻らされていることが発掘調査で確認されています。高松城は落城後、宇喜多氏の領地となり、宇喜多氏失脚後は徳川家旗本の花房氏の陣屋が一時おかれていました。

蛙が鼻築堤跡 高松城の南東約1kmほどに所在し、この地点から足守川まで約4kmにわたって秀吉によって堤防が築かれたとされます。堤防の一部が現在も残されているほか、周辺の水田には築堤の痕跡が明瞭に残ります。発掘調査では地表から約70cmほどで築堤の基底部が確認され、杭列や俵の跡が検出されました。築堤の高さは不明ながら基底部の幅は幅20～24mほどであったことが判明しています。

すくも山遺跡 すくも山は北区足守の平地部に位置する小山で、嘉応元年(1169)に作成された「備中国足守庄絵図」にその姿が記載されています。この小山から14世紀から16世紀にかけての中世墓や城郭遺構が検出されています。城郭遺構は3段の郭と堀切、石積み等が確認されており、付近にある冠山城の出城とみられています。

一国山城跡 岡山市北区下足守に位置し、足守平野から東へ入り込む三井谷北側の独立丘陵である一国山(標高約85m)の山頂付近に立地しています。発掘調査の結果、山頂の土塁と郭以外は検出されませんでした。秀吉が毛利方の城である冠山城を攻める際、兵を揃えた場所として「中国兵乱記」にその名が見えることから、織田方の陣城であったと考えられます。

【文献】

岡山市教育委員会 1998 『すくも山遺跡』

岡山市教育委員会 2000 『備中高松城三の丸跡発掘調査概報』

岡山市教育委員会 2006 『南坂8号墳・一国山城跡・一国山古墳群』

岡山市教育委員会 2008 『備中高松城水攻め築堤跡』

【交通】

JR 吉備線「備中高松駅下車」高松城跡 徒歩10分 蛙が鼻築堤跡 徒歩15分



図 1 高松城調査区配置図

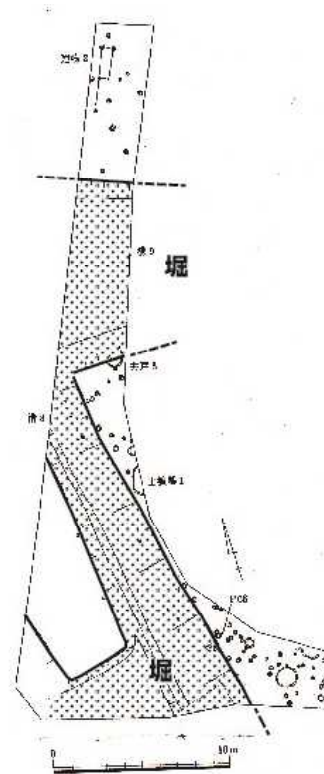


図 2 三の丸南西端の堀

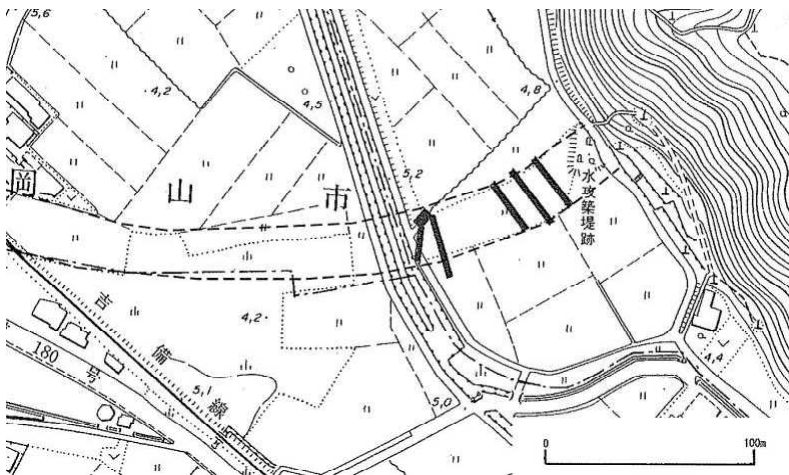


図 3 築堤跡調査区配置図

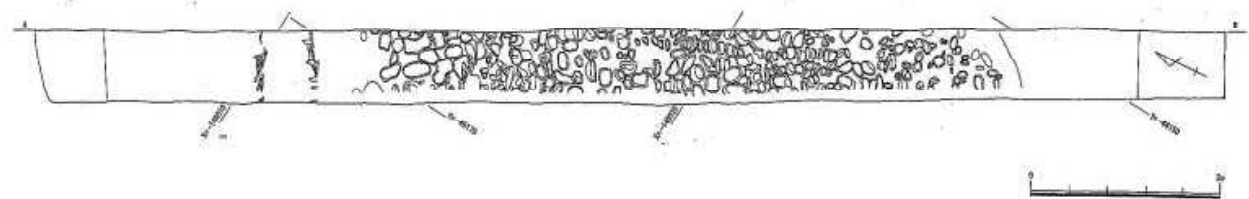


図 4 築堤基底部（杭列・俵検出状況）

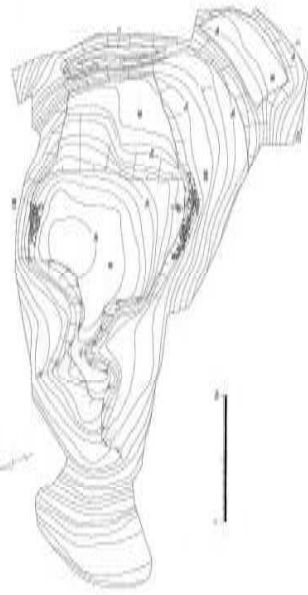


図 5 すくも山遺跡

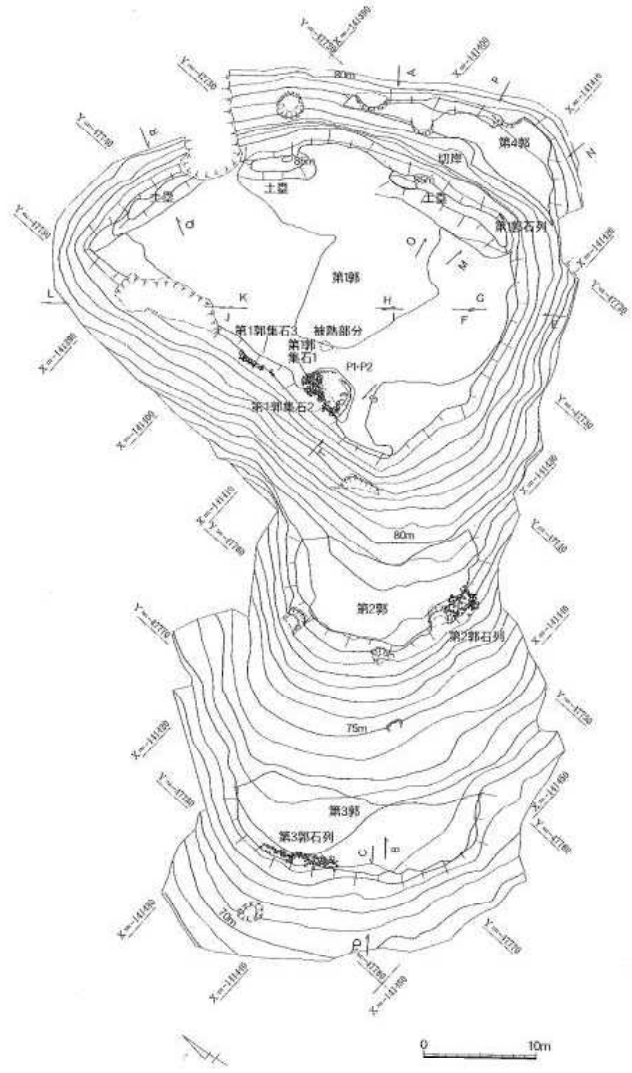


図 6 一国山城

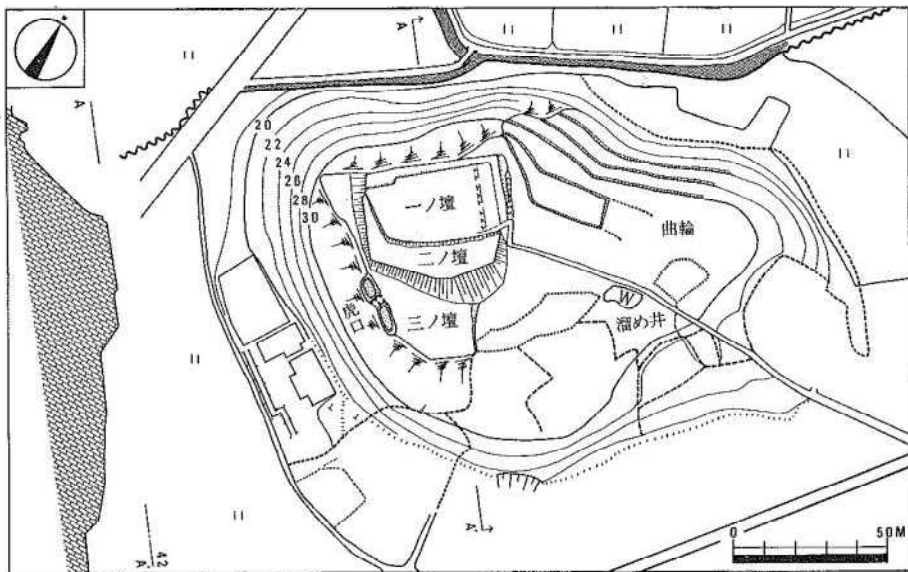


図 7 冠山城